

参加費

参加形態・種別	全日程(2日間通し)	1日のみ	年会費
会 員	8,000円	4,000円	4,000円
一 般	12,000円	6,000円	
学 生	3,000円	1,500円	

※会員の方は参加費に年会費を加えてお申込みください。
(年会費には『社会的養護研究 第3号』の代金を含む。)

参加申し込み方法 5月31日(水)「最終〆切り」

- ① 全国児童養護問題研究会 第50回記念大阪大会 参加申し込みフォーム(以下、申し込みフォーム)より申し込みください。その際、必ずメールアドレスが必要です。
- ② 施設等の所属より複数名で参加される場合も、1名ずつ申し込みしてください。
- ③ 申し込みフォームから申し込み後、正しく受付された場合には自動送信にて受付完了メールをお送りします。受付完了メールが到着しない場合は、正しく受付できておりません。入力されたメールアドレスを再度ご確認くださいとともに、念のため迷惑メールフォルダ等もご確認ください。その他、ご不明な点は事務局までメールでお問い合わせください。
- ④ 児童福祉講座・分科会は、定員によりご希望にそえない場合があります。必ず第2希望までご入力ください。

《問い合わせ先》

全国児童養護問題研究会 第50回記念大阪大会 現地実行委員会事務局
kansai50@youmonken.com

参加費の振り込み方法

- ① 参加費・年会費の合計額を下記口座へ5月31日(水)までにお振込みください。現金書留での送金は受付できません。
- ② 振り込み後にキャンセルされる場合は、メールにて振り込み者名・所属をご入力の上、事務局まで送信してください。キャンセルの期日は、**6月16日(金)まで**とさせていただきます。期日までにご連絡をいただいた場合、振込手数料を差し引いた金額を返金いたします。キャンセルの期日を過ぎた場合、返金はいたしかねますが、**資料は後日送付させていただきます。**

振込み 参加費振込み期限:5月31日(水)

振込み先:ゆうちょ銀行

【店 名】四一八 (ヨンイチハチ) 【店 番】418

【預金種目】普通預金 【口座番号】9985466

【口座名称】全国児童養護問題研究会 大阪支部
(ゼンコクシトウヨウコモンダイケンキュウカイ オオサカシブ)

【ゆうちょ銀行からの送金】記号 14140 番号 99854661

参加費のお振込みに関するお願い

振込みの際、できる限り参加者の個人名でご記入ください。やむを得ず、施設名で振り込まれる場合は、法人名などを省いてご記入ください。(頭文字12文字で参加者のお名前がわかるようにお願いします。)

駐車場のご案内

会場や近隣に駐車場やパーキングはありますが、台数が限られており、当日は駐車できない可能性があります。公共交通機関のご利用をおすすめします。駐車できる車輛高等については事前にドーンセンターのHPでご確認ください。

参加申し込みフォーム



スマートフォン等より

上記、QR コードから参加申し込みフォームにアクセスしてください。

参加申し込み URL

<https://forms.gle/11GJAsDAGFdAMUdg8>



未来をになう子どもたちに
仲間とつくりよう豊かな実践を

全国児童養護問題研究会

第50回記念

大阪大会

2023 6/24(土)~25(日)

会場 **ドーンセンター** (大阪府立男女共同参画・青少年センター)

会場住所: 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

電車でお越しの場合 京阪「天満橋」駅、Osaka Metro 谷町線「天満橋」駅から徒歩約 350m

JR 東西線「大阪城北詰」駅から徒歩約 550m

バスでお越しの場合 大阪シティバス「京阪東口」からすぐ

参加申し込み・問い合わせ

全国児童養護問題研究会 第50回記念大阪大会 現地実行委員会事務局

社会福祉法人 大阪福祉事業財団 すみれ乳児院 (担当:原田)

E-mail:kansai50@youmonken.com (お問い合わせはメールでお願いします)

事務局住所 〒535-0022 大阪市旭区新森 7-8-16 すみれ乳児院内

全国児童養護問題研究会ホームページ <http://youmonken.org/>

主催

全国児童養護問題研究会

後援(申請中)

大阪府
大阪市
大阪府社会福祉協議会
大阪市社会福祉協議会
朝日新聞厚生文化事業団

【開催期間】

2023年6月24日(土)・25日(日)

【開催場所】

ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

【実行委員会】

大阪府大阪市中央区大手前1丁目3番49号

大会委員長:武藤 素明(全国児童養護問題研究会 会長)

現地実行委員長:茨木 範宏(社会福法人 大阪福祉事業財団 理事長)

大会事務局長:原田 裕貴子(すみれ乳児院)

大会事務局次長:芦田 徹(つばさ園)、岡出 多申(高鷲学園)、若林 里仁(迦陵園)

第50回記念 大阪大会へのお誘い

不登校・いじめの増加、子どもの貧困、子どもの自殺、児童虐待等の増加など子どもを取り巻く環境や状況は依然厳しい状況下にあり、とくにこのコロナ感染下の閉塞感がそれに追い打ちをかけ深刻さは増すばかりです。そんな大変な状況下において、里親、社会的養護関係施設、児童相談所等子どもや家族に関わる皆様におかれましては、子どもたちの最善の利益を実現するためにご奮闘のことと存じます。

全国児童養護問題研究会(養問研)は、1972年の第1回全国大会以来「福祉と教育の統一」「未来をになう子どもたちに 仲間とつくりよう豊かな実践を」を掲げ、毎年1回の全国大会と東日本・中部日本・西日本に分けての研究集会や、各支部毎の学習会や現場に根ざした実践交流会などの活動を展開してきました。そして、今回50回目の記念大会を迎えることとなりました。

国は今年4月からこども家庭庁を創設してやっと子ども家庭福祉に本腰を入れて取り組もうとしています。少子化対策に趣きがおかれ社会的養護の充実策は依然不透明なままです。また、児童福祉法改正の施行に向けて具体的検討が行われているこのような重要な時期に、テーマを「仲間と語り合おう、考え合おう社会的養護の課題と展望を」とし、久々参集型の全国大会として開催をいたします。

会員の皆様、また、会員でない方も集い、ともに子どもの最善の利益を実現するための児童養護の展望を学び語り合いたいと存じます。皆様お誘い合わせの上、多くの方の参加を心よりお待ちしております。

全国児童養護問題研究会 会長 武藤 素明

大会スケジュール 6月24日(土)・25日(日)

日程	時間	内容	会場
24日 (土)	11:00~	当日会場受付	7階 ホール
	12:00~12:30	開会式(全体会)	
	12:30~13:15	基調報告	
	13:30~15:15	記念シンポジウム	7階 ホール
	15:30~17:30	児童福祉講座	1階~5階 各会場
25日 (日)	18:00~19:30	特別講座・交流会	7階 ホール
	8:30~	当日会場受付	5階
	9:00~12:00	分科会 午前	1階~5階 各会場
	12:00~13:00	昼食休憩	各自
	13:00~16:00	分科会 午後	1階~5階 各会場
	16:15~17:00	閉会式(全体会)	1階 パフォーマンススペース

※受付後からプログラム開始までの時間と、昼食休憩時間に7階ホール前ホワイエにて書籍販売を行います。

第7分科会 | 施設内の専門職との連携

午前ミニシンポジウム「小規模化の中での“食”を考える」

子どもたちの生活の中で食はとても大切なものです。地域分散化、小規模化を進めていく中で、施設での食の提供のあり方が変化してきていて、試行錯誤をしている現状があると思います。ホーム制、地域小規模施設での取り組み、そして、栄養士としてのそれぞれの報告をもとに、皆さんと、子どもたちの食について、現場職員、栄養士、調理員との連携について語り合いたいと思います。

「生活支援における食の位置づけ」

＜報告者＞児童養護施設 名古屋文化キンダーホルト 地域小規模フオワイエ 主任 村井 駿介 氏
地域分散・グループ化が推奨され、個別のニーズに合わせた支援が時代と共に求められる。一方、生活支援の基盤は集団支援であり、どの子にも平等に与えられる支援の質が生活を守る。地域小規模施設において、環境整備と食事作りが集団支援の核であり、食事作りと生活支援や子ども、職員との関係作りとの繋がりを考える。

「食生活と話し合いを大切にした支援」

＜報告者＞児童養護施設 つばさ園・児童心理治療施設 ももの木学園 栄養士 田和 かな子 氏
つばさ園は支援方法として「食生活を基盤にした小規模グループケア」を掲げており、各ホームでの食事作りなどを長年続けてきました。また「何事も話し合いで解決する」ということも掲げており、この考えは職員そして子どもにも浸透しています。栄養士としてこれらを大切にしてきた実践を報告し、職員間の連携について考えたいと思います。

「生きる力を育てる『食』～ホーム食の取り組みから～」

＜報告者＞児童養護施設 助松寮 主任 武田 曜 氏
児童養護施設の小規模化、地域分散化が進む中、子ども達の生活空間でケアワーカーが食事作りをする施設が増えて来ていると思います。助松寮は現行のホーム制へと移行した平成元年の改革期にホーム食の取り組みを始め、気付けば35年が経とうとしています。社会全体として家族の在り方や価値観そのものが変わり行く中、変わらないもの、大切にしていきたいことを、改めて考えてみたいと思います。

午後「相互理解に基づく多職種連携について考える」

＜報告者＞児童養護施設 プティヴィラージュ 主任・心理士 柴田 一匡 氏
施設では保育士、児童指導員、家庭支援専門相談員、個別対応職員、自立支援員、栄養士、心理士など様々な職種がチームで子どもや家族を支援しています。チームが機能するためには、専門職相互の理解が大切になります。本分科会では、施設心理士の立場から、相互理解に基づく多職種連携による取り組みについて実践報告を行います。

第8分科会 | 今後の社会的養護のあり方

午前「フォスタリング機関の取組からみえること」

＜報告者＞児童養護施設 品川景德学園 施設長 高橋 朝子 氏・フォスタリング機関六踏園職員
東京都は全児相にフォスタリング機関を設置予定、さらに区立児相の設置が進んでおり、一本化だった里親支援がそれぞれの機関独自の取組となってきています。里親支援制度や実際にこの春からフォスタリング機関として取り組んだ中で見つけた課題についてみなさんと共に考えられるような場としていきたいと思ひます。

午後「専門里親20年から今後の社会的養護のあり方を考える」

＜報告者＞大阪市里親会会長 専門里親 梅原 啓次 氏
「里親・ファミリーホーム、行政、施設、フォスタリング機関が目指すチーム養育」
「安全・安心・温かい家庭」を提供し、愛情を注ぐことによって心を癒し、日常生活を送る中で社会性を身につけるよう根気よく世話をし、子どもたちが「生まれてきてよかった」と生きる力を得て、未来に希望と自信を持って自立し、素晴らしい人生を歩んでいってくれるようその役割を果たすためにはチーム養育が急務だと考えます。